

就任あいさつ

総合学習センター
所長 米持五郎



このたび、教育長就任に伴い退任された土屋稔さんにかわり、総合学習センター所長（兼公民館長・兼図書館長）の任を拝命いたしました。

現在、社会教育や生涯学習は、ニーズの変化や社会の多様化、経済状況等により変革が求められています。総合学習センターもそのような社会の変化に対応すべく、独自の役割や目的をもった教育関係施設が一体的な運営することにより、それぞれの特色を活かした事業を展開すべく、本年4月にスタートいたしました。

その設立趣旨を踏まえ、これからも市民の皆様のお力をお借りしながら、共に考え、魅力のあるセンターにするため努力したいと思います。

美術館発



『第4回飯山和紙研究会作品展』開催中！

現在、美術館では、2階ギャラリーにおいて飯山和紙研究会作品展を開催しています。飯山和紙研究会は市内を中心に有志の方々が集まり、和紙の原料となるコウゾの栽培から紙すきまで、和紙づくりの全工程を実践しています。

展示作品には、会員の方々がすいた和紙が使われていることももちろんですが、紙をすく前のコウゾの繊維を作品にするなど、コウゾの栽培から手がけているからこそできるユニークな表現もあります。

4回目の作品展となる今回、17人の出品者によるランプシェードやタペストリーなど約30点を展示しています。和紙本来の自然の風合いを活かした作品をぜひご覧ください。

図書館発



テレビ・映画で味わった感動を原作で！

階段ロビーで行っている本の「テーマコーナー」。現在のテーマは「あのドラマ・映画の原作を読もう！」です。ドラマや映画で取り上げられて話題になった作品を、原作で楽しませんか。

このコーナーは12月末までとなりますので、お早めにご利用ください。

女性センター未来発

未来利用者研修会 参加者募集！

■日時 1月20日(土)午前6時30分出発(マイクロスバス) 午後10時頃帰着予定

■場所 女性と仕事の未来館(東京都港区)

■研修内容 トークイベント
「ハッピーキャリアの方程式」
〜ピンチをチャンスに変えるワザ〜

○出演者 枝廣淳子(同時通訳者、環境ジャーナリスト)
松田公太(タリーズコーヒージャパン㈱代表取締役)
矢野貴久子(㈱カフエグロブドットコム代表取締役)
○聞き手・コーディネーター 渥美雅子(女性と仕事の未来館館長)

参加費無料です。皆様のご参加をお待ちしております。

ふるさと館発

「昔の学校展」開催中

飯山市ふるさと館では、12月28日(木)まで、企画展「昔の学校展」を開催しています。

昔懐かしい教室の風景を再現し、各種資料を展示しています。

開催期間残りわずかとなりました。皆様お誘いあわせの上、お出かけください。

公民館発

日本画入門 受講者作品展

飯山雪国大学趣味コース 市民作品 展示ギャラリー

本年度趣味コースで日本画を学ばれた皆さんの作品を展示しております。

飯山市公民館では、この他にも様々な作品展示を行いますので、どうぞお立ち寄りください。

公民館報 いいやま

No.607

平成18年(2006)12月15日発行
発行・編集：飯山市公民館
〒389-2253
飯山市大字飯山1436-1
電話：0269-62-3342
FAX：0269-62-5940

飯山公民館 電話：62-3342 FAX：62-5940
秋津公民館 電話/FAX：62-2330
木島公民館 電話/FAX：62-0555
瑞穂公民館 電話/FAX：65-2501
柳原公民館 電話/FAX：62-5562
富倉公民館 電話：67-2136 FAX：67-2211
外様公民館 電話/FAX：62-1029
常盤公民館 電話/FAX：62-3200
太田公民館 電話/FAX：65-4579
岡山公民館 電話：69-2010 FAX：69-1800

家族で子育て、地域で子育て

恵泉女学園大学・大学院 教授 大日向雅美 先生

今から30年前、コインロッカーに実母が子どもを捨てる事件が頻繁に起こり話題になった。当時、ほとんどの男性有識者のコメントは、赤ちゃんが殺されてはならないことと、もう一つは女性には母性本能があるはずで、虫けらでさえわが身をけずつても子どもを守るのにどうして完璧な育児ができないのかというコメントが続いた。

先生は当時、そんなに母性は確かなものかと思い、自分が母になった時はたして完璧な育児ができるのか不安に思ったとお話をされました。世の中には犯罪を犯す女性もいれば、明るく子育てしている女性もいてどんな違いがあるか調査したが、後者にも本当はつらいのに楽しんで育児しているがごとく装っている人達が多かった。先生がその



少子化時代がやってきて子育て支援の必要性が取り上げられているが、30年前と比べると、今は夢のような時代だと思いが、手放して喜べるかといえばそうではないという。子育てブームになっても育児が楽になったかといえばそうでもないような気がする。本当は産みたいけど産む勇気がでない。原因はなにか、その対策を的はずさずにでさればうまくいくはずであるが、効果は急ぐべきではないと思う。また、人々の生き方は多様であり、産む産まない、不妊や結婚したくない人もいて、その人々の多様な生き方も認め合いつつ、ある一定の理想とされてきた社会を前提にしないことも必要である。一人ひとりの主体的な選択を尊重しつつ生まれてきた子どもたちをみんなで見守れる社会をつくる必要であり決してあせってはいけないと話されました。

子育て支援は寄り添うこと、子育てはだれもが初めてのこと、子育ては当たり前前なのでそれぞれの人が寄り添うことである。そうする中で一番言ってはいけないことは、「今時の親はどうしようもない」という言葉ではないか。今、年配の人達からよく聞かれる言葉であるが、そのどうしようもない親たちを育ててきたのは誰なのか反対に言いたい。子育て支援は10年一昔と違って違いを認め交流すべきであり、自分のやり方が普遍的だと勘違いしないことだと思ふ。熱心な人ほど指導することが支援と思いがちだが、なぜ、この人はこんなことを言うのか、必ず理由があるはずだと傾聴すること(耳を傾けること)が一番大切なことであると話されました。

育児をしている母たちのつらさは一人の時間が持てない、話し相手がない、社会から取り残される不安などであるが、育児をしている母もひとりの社会人として考えた、行動できる支援が必要である。一方、小さい子がいるとき働くべきか、一人で悩むべき問題でなく社会みんな子育て支援し、母の愛が必要であるが、母の愛だけでなく多様な愛に豊かに適切に包まれなければならないということをはかりに乗り越える。職場では、男性も育児に関われるよう育児休暇を取りやすくするのも大切であり、小さい頃から育児に関わる積み重ねができる日が来るといえると思う。直接でなくても妻との会話を通して子育てを分かち合えるようになっていけばいいと思う。また、年配の女性たちに多いが、男性の育児に対して不用意に入り込まないのも大切である。周囲の支援もとても大切であるが、乗り越えるべき壁があり、それを乗り越えなければ安心して子育てできないのではと感じると話されました。家族で子育て、地域で子育てという、行政からでは手の届かない家庭の部分についてもわかりやすくお話していただきました。